

## 陸上雑誌・図書におけるスポーツオノマトペの特性

牟田 祥子

日本語はオノマトペ(onomatopoeias : 擬音語・擬態語)が非常に豊富な言語である。オノマトペは物事の様子やニュアンスなどを表現できるため、日常会話やテレビ、ラジオでの話し言葉だけでなく、新聞・雑誌・図書・絵本などの書き言葉でも多く使用されている。スポーツの場面も例外ではない。このような運動・スポーツの領域におけるオノマトペはスポーツオノマトペと呼ばれ、指導者やアスリートが運動のコツや動作を表現する際に使用している。

スポーツオノマトペについて、音韻構造、音韻形態、意味内容に関する研究や、柔道、鉄棒運動、ステップ運動、跳び箱運動を対象にしてその効果を研究したものはあるが、書き言葉を対象としたスポーツオノマトペの研究は行われていない。

そこで、本研究は陸上競技を対象として、書き言葉のスポーツオノマトペに着目して、陸上に関する図書や雑誌の中で使われるスポーツオノマトペの特性について明らかにすることを旨とする。具体的には、書き言葉のスポーツオノマトペについて、形態、語根、使用率、表記、音韻の拍、語頭の子音、音韻形態、音の種類について分析を行う。

対象とした陸上雑誌・図書は計 84 冊で、スポーツオノマトペと判断された語は 568 語であった。これらのスポーツオノマトペについて、話し言葉のスポーツオノマトペと比較した結果、以下のことが分かった。一つ目に話し言葉のスポーツオノマトペには擬音語が多く、書き言葉のスポーツオノマトペには擬態語が多く使われている。二つ目に語頭の子音で使われる音は、話し言葉のスポーツオノマトペは h/k/t/s/y が多く、書き言葉のスポーツオノマトペは y/b/g/p/k が多い。三つ目に拍数の多さと特殊拍(濁音、半濁音)の関連について、拍数が少ないスポーツオノマトペほど濁音を利用してその重さや強さを示し、拍数が多いスポーツオノマトペほど半濁音と直音を利用してスピードや動作の流れを示している。最後に、スポーツオノマトペに含まれる特殊拍(音韻)について、濁音や撥音が含まれていると「重さ」「強さ」「速さ」「硬さ」を示し、半濁音を含むと「リズム」「速さ」「スピード」を示し、促音や長音を含むと「動作の長さ」「連続して行う動作」「距離感」を示す。これらの結果から、スポーツオノマトペに含まれる特殊拍や拍数は、スポーツオノマトペの動作内容を表現する際に重要な働きを担っていることが分かった。

今回の研究では、陸上雑誌・図書からスポーツオノマトペを抜き出し分析するだけであったが、読み手である読者がスポーツオノマトペをどのように感じ取っているのかをアンケートなどで調査すると書き言葉のスポーツオノマトペの長所や短所も分かることが期待されるため実施したい。これを今後の課題とする。

(指導教員 辻 慶太)